九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

Improved esophagography screening for esophageal motility disorders using wave appearance and supra-junctional ballooning

畑, 佳孝

https://hdl.handle.net/2324/6787460

出版情報：Kyushu University, 2022, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)

KYUSHU UNIVERSITY

氏　名：　畑　佳孝

論文名：　Improved esophagography screening for esophageal motility disorders using wave appearance and supra-junctional ballooning

（波様所見、接合部上バルーニングを用いた食道運動異常症に対するスクリーニング食道造影検査の精度向上）

区　分：　甲

論　文　内　容　の　要　旨

高解像度食道内圧検査（HRM）は食道運動異常症（EMDs）診断におけるゴールドスタンダードであるが、専門施設にしかない特殊な装置を必要とするため、一般診療で施行可能なスクリーニング検査の開発が望まれている。本研究では、EMDs診断において、我々が提唱した2つの新規所見を用いてバリウム食道造影検査（BE）スクリーニングの有用性を評価した。2013年1月から2020年10月の間に、EMDsが疑われHRMとBEの両検査を受けた244症例を分析した。HRMは、シカゴ分類3.0版を用いてEMD診断を行った。BEは硫酸バリウムを用いた食道連続撮影を行った。EMDsに対するBEスクリーニングは、3つの従来BE所見（液面形成、数珠様・コークスクリュー様所見、無蠕動・微弱蠕動）と2つの新規BE所見（波様所見、接合部上バルーニング）を用いて行った。2つの新規所見と従来所見を用いてEMDsを診断するBEスクリーニングの感度と特異度はそれぞれ79.4%と88%であった［受信者動作特性曲線下面積（AUC）＝0.837］。2つの新規所見を除いた場合、感度と特異度はそれぞれ63.9%、96%であった（AUC＝0.800）。食道アカラシアは液面形成と高い相関を示し（88.7%）、absent contractilityは、無蠕動・微弱蠕動と高い相関を示した（85.7%）。遠位食道痙攣と数珠様・コークスクリュー様所見との相関は60%、アカラシアと波様所見との相関は59.7%と比較的高かった。個々のBE所見の評価者内再現性、評価者間一致率はそれぞれ84.4%、75%であった。波様所見は積算弛緩圧（IRP）が高く、遠位潜時が短いことと関連した。また、接合部上バルーニングはIRP高値と関連していた。以上から2つの新規所見を追加することでBEスクリーニングは一般診療においてEMDs診断に有用な可能性が考えられた。